

児童発達支援または放課後等デイサービス事業所における自己評価

公表:令和 6年 1月 18日

事業所名 満天の丘 いちばん星

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	改善目標、工夫している点など
環境・ 体制整備	1	利用定員が活動室等スペースとの関係で適切である	67%	33%	0%	児童数が多い時は、部屋を分ける、屋外での遊びを促す等の工夫をしている。
	2	職員の配置数は適切である	83%	17%	0%	代替職員を安定的に確保できるよう努めていく。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	67%	33%	0%	玄関には必要時、車いす用スロープを随時設置可能。トイレが狭く、不器用さのある子には使いづらい。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	83%	17%	0%	ミーティングや会議の中で、職員全員で話し合い改善していくことを意識している。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	100%	0%	0%	アンケートに記載されたご意見は、すべて目を通し、さらなるサービス向上に努めていく。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	100%	0%	0%	ホームページや事業所の通信からも、見ることができるようにしている。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	83%	17%	0%	地域の民生児童委員、高齢者事業所管理者の方に第三者委員となっただき、施設見学やアンケート結果等も随時お伝えし、アドバイス等いただいている。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	100%	0%	0%	毎月の内部研修のほか、外部への研修にも積極的に参加している。
適切な 支援の 提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	100%	0%	0%	サービス利用計画に沿って立案した個別支援計画を、会議の中で話し合い作成している。
	10	子どもの発達状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	50%	17%	33%	アセスメントツールの導入に関しては、事業所にとって適したものを検討していく。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	100%	0%	0%	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	100%	0%	0%	活動会議の中で、季節に応じた遊びや体験をバランスよく取り入れることを意識している。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	100%	0%	0%	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる放課後等デイサービス計画を作成している	100%	0%	0%	個別での活動と、異年齢小集団での遊びを通してのやり取りや学びを大切にしている。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	100%	0%	0%	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	83%	17%	0%	振り返りは、毎翌朝の職員が揃う時間帯に情報共有。SNS等も活用し、連絡漏れの無いよう配慮。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	100%	0%	0%	
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	100%	0%	0%	保護者の方と電話もしくは直接面談の時間を作っていただき、随時見直している。
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせる支援を行っている	100%	0%	0%	
20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	100%	0%	0%		

関係機関や保護者との連携	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	83%	17%	0%	必要時には、学校、計画相談、事業所等で情報共有している。
	22	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	67%	33%	0%	会議に出席し、双方が情報共有を行っているが、利用開始の際により丁寧な引継ぎを行い、受け入れがさらにスムーズに実施できるよう努める
	23	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	83%	17%	0%	事業所へ、電話にて児童に対する支援の状況等を報告している。
	24	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	67%	33%	0%	お便りのやり取り、研修会の参加、会議の出席等で連携を図っている。
	25	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	67%	33%	0%	管理者が協議会に参加し、資料等も職員に回覧。研修会にも職員参加。
	26	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	100%	0%	0%	送迎時や電話などで、体調面や精神面の変化などについて情報共有ができるように努めている。
	27	保護者の子育てで支援を支える観点から、定期的に保護者に対して開かれた場所を設け、支援を行っている	100%	0%	0%	毎月開催の子育てサロンや、個別面談などを随時実施。
保護者への説明責任等	28	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	100%	0%	0%	契約時に管理者より説明を行い、いつでも回覧できるように玄関に設置している。
	29	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	100%	0%	0%	電話相談や個別相談など随時行っている。
	30	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	100%	0%	0%	苦情については真摯に向き合い、誤解のないよう事実を正しくお伝えするようにしている。
	31	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	100%	0%	0%	
	32	個人情報に十分注意している	100%	0%	0%	
	33	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	100%	0%	0%	
	34	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	100%	0%	0%	地域にも毎月の通信を回覧板で情報発信し、講演会や音楽会等に参加促し、催しの際は会場として貸出を行っている。
非常時等の対応	35	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	83%	17%	0%	今後も、内部研修などでマニュアルを確認し、対応力をつけられるようにしていく。
	36	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	100%	0%	0%	毎年、年3回、火災、地震、不審者対応などを想定した訓練を実施している。
	37	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	100%	0%	0%	
	38	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	67%	17%	17%	身体拘束は行わないとしているが、今後、虐待防止委員会にて組織的に話し合いし決定する。
	39	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	100%	0%	0%	アレルギーの有無について確認し、対応している。
	40	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	100%	0%	0%	